

DX戦略

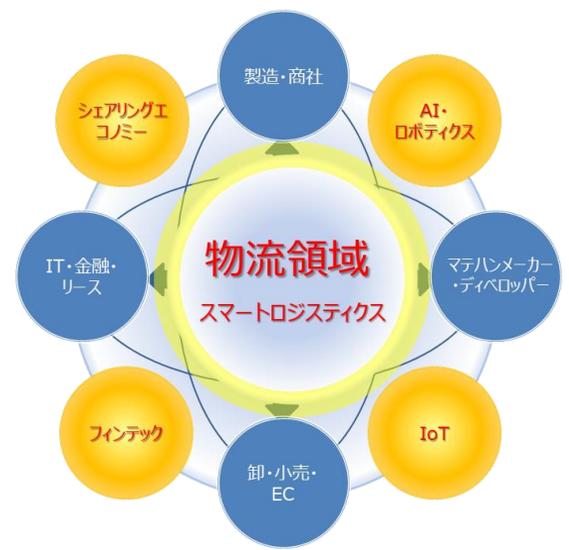
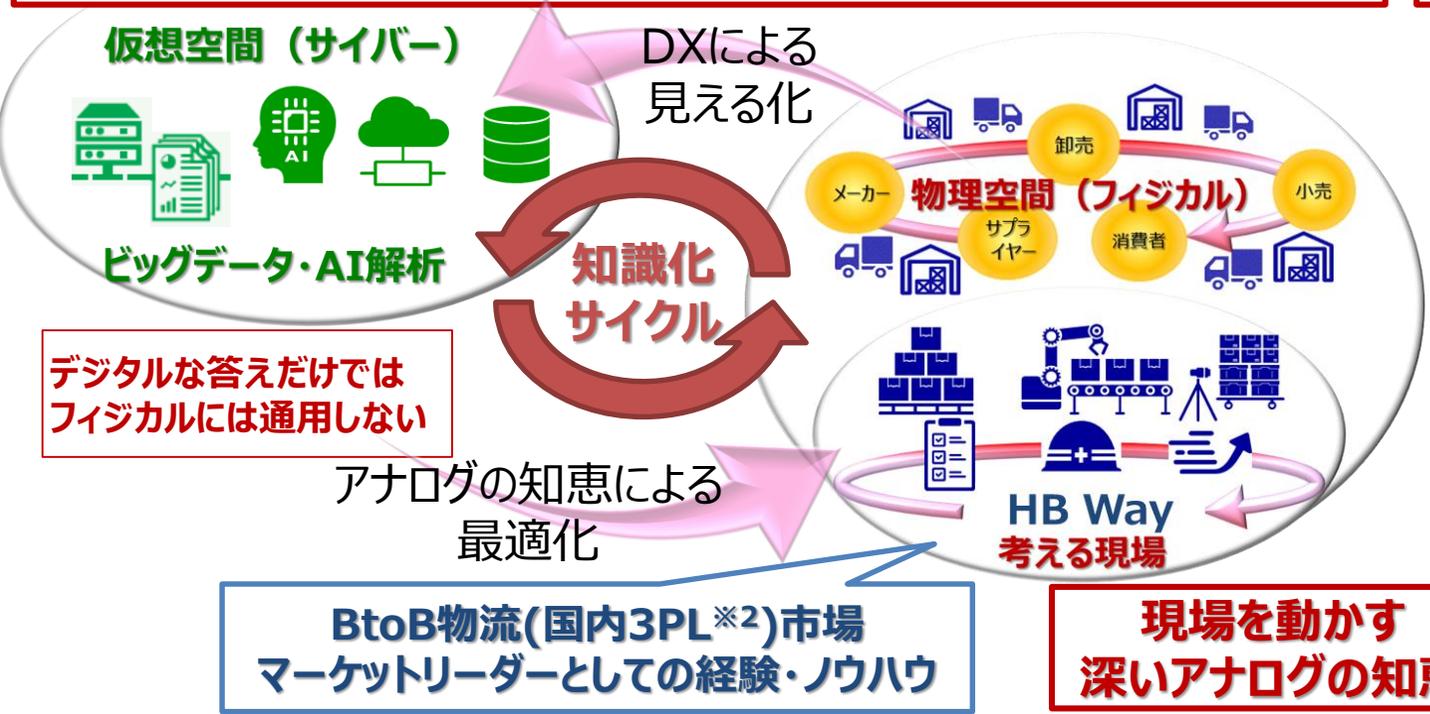
—「LOGISTEED 2021」実現に向けて—

株式会社 日立物流

直面する社会課題に対し、現場オペレーションをDX※1により見える化して徹底的に分析。深いアナログの知恵を加えてソリューションに転換し、社会との共通価値を実現。

CPS (Cyber Physical System)

オープンイノベーション



方針：CPS※3と協創による価値創造

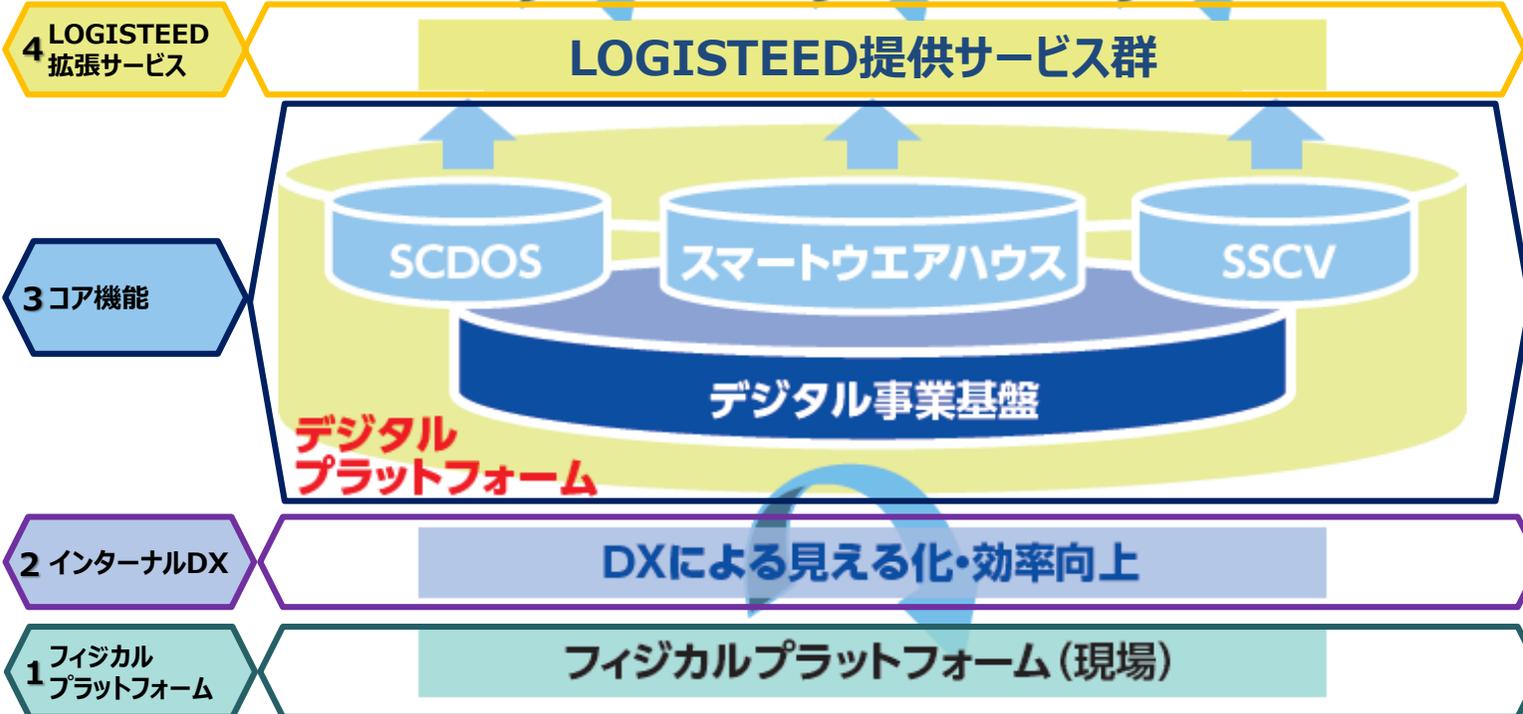
現場(フィジカル空間)にある多様なデータをセンサーネットワークやシステムで収集し、サイバー空間でそれらのビッグデータをAIなどにより分析、知識化を行う。そこで蓄えた情報や価値を現場に投入することで、さらなる現場力の強化を図るとともに、さまざまな協創パートナーとのオープンイノベーションの活性化により新事業や新たなビジネスモデルの創出につなげる。

物流領域におけるSociety5.0の実現

※1 Digital Transformation ※2 3rd Party Logistics ※3 Cyber Physical System

各国・地域の規制を踏まえたデータ利活用を可能にする**セキュアなデジタル環境を構築**。社内の業務効率化を推進、データをデジタル事業基盤に集約する**インターナル(社内向け)DX施策**と、データを協創パートナーと共有し、ソリューションを創出する**エクスターナル(社外向け)DX施策**を推進。

LOGISTEEDで4つの流れを束ねる



主なDX推進施策

- 協創によりデータを価値に変える
エクスターナルDX
- ①SCDOS※1
- ②スマートウェアハウス (SWH※2)
- ③SSCV※2
- 業務を効率化し
データを集約する
インターナルDX
- ④デジタル事業基盤
- ⑤倉庫内デジタルPF
- ⑥基幹システム刷新
- ⑦RPA※4導入推進
- ⑧ポータルサイト構築

※1 Supply Chain Design & Optimization Services ※2 Smart Warehouse ※3 Smart & Safety Connected Vehicle ※4 Robotic Process Automation

3. DX推進施策（3つのコア機能）

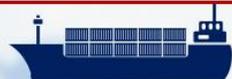
LOGISTEED推進のためのフィジカルとサイバーをつなぐ**3つのコア機能**を駆使し、**物流領域を超えたエコシステム**の形成・拡大をめざす。

SSCV
Smart & Safety Connected Vehicle

<p>効率化</p> <p>Smart</p> <p>業務効率向上 法令遵守</p>	<p>安全</p> <p>Safety</p> <p>安全運行管理 事故ゼロの社会</p>	<p>車両整備</p> <p>Vehicle</p> <p>車両整備の最適化 故障予兆・予防整備</p>
---	--	---

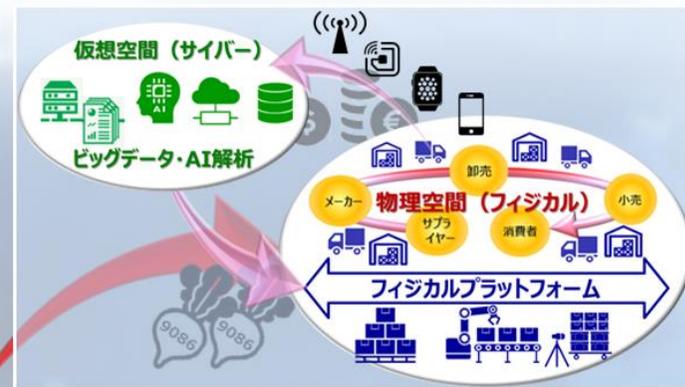


フォワーディング
事業強化



SCDOS
Supply Chain Design & Optimization Services

日立物流が推進する
SCDOSのサプライチェーンデザイン



SMART:WAREHOUSE

次世代物流センター
(大規模拠点)



お客様のサプライチェーン上の情報をデジタル事業基盤で一元管理・可視化し、課題の顕在化から分析による課題解決、シミュレーションに基づく実業務での最適化を実現。さらに、BPO※1までサポート。

概要

SCDOSは、お客様のサプライチェーン上の情報をデジタル事業基盤で一元管理・可視化し、課題の顕在化から分析による課題解決、実業務での最適化までをサポートするサービスです。

日立物流グループが3PL事業を通じて培ってきたノウハウ・人財と先進的なITツールを活用し、サプライチェーン戦略の策定から物流最適化、BPOまでを提供しています。SCDOSは2019年度にサービス提供を開始し、さまざまな業界・業種のお客様に利用いただいています。

事例

対象:日用品メーカー様

課題:海上コンテナ輸送の実態が把握できていない

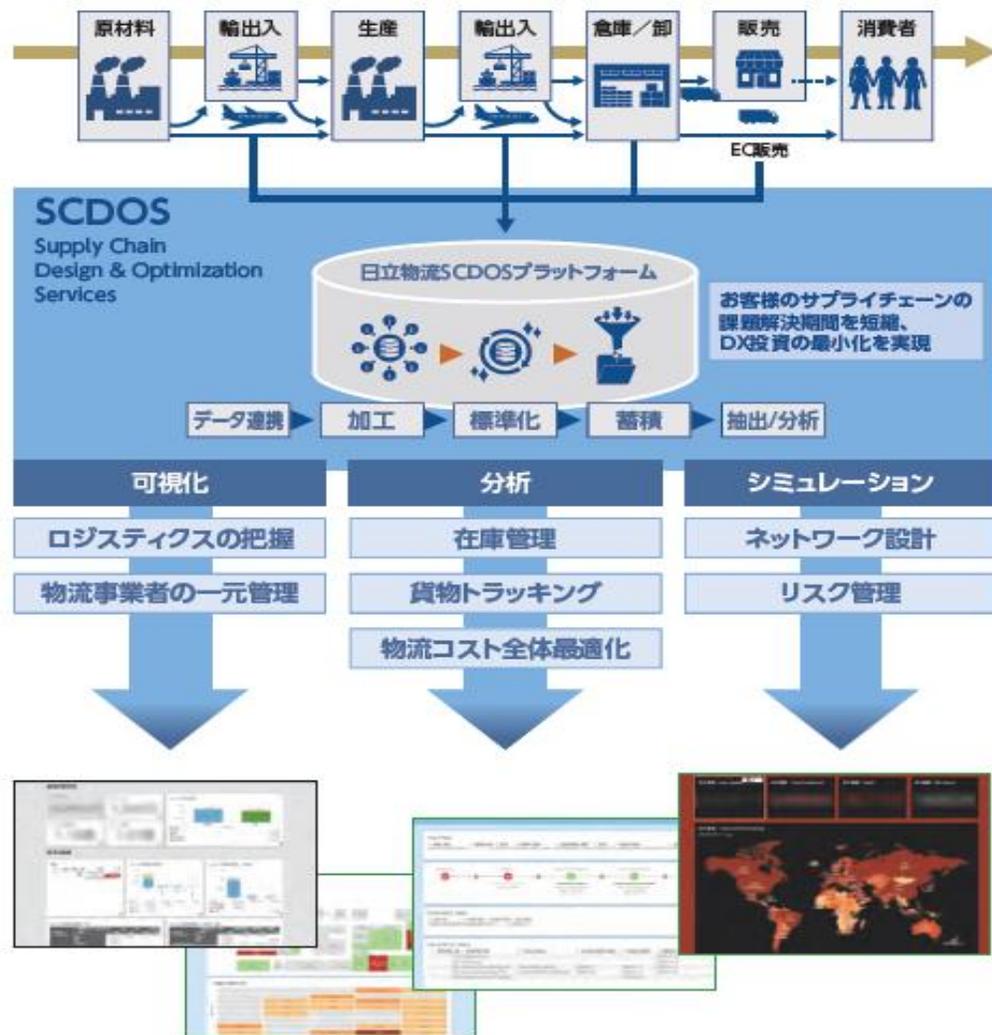
提案:インタラクティブな輸送状況の集計・可視化

効果:改善施策の効果測定と、船社別の品質把握
船社毎の物量・遅延・料金などの分析



《例》輸送船社オンタイム率状況(月別・国別・船社別)

お客様のサプライチェーンをデジタル化



スマートウェアハウスとは、日立物流が培ってきた**自動化・省人化のノウハウとデジタル技術を組み合わせ、業界ごとに標準化して提供**する仕組み。スマートウェアハウスの進化系であるECプラットフォームは、EC事業の成長に必要な4つの機能(在庫保管、梱包、発送、データ連携)をパッケージにして、**初期費用ゼロ・固定費ゼロ・従量課金型**で提供。

ECプラットフォームの概要と特徴

概要

EC事業の成長に必要な4つの物流業務(在庫保管、梱包、発送、データ連携)をパッケージで提供します。シェアリングすることで、初期費用ゼロ・固定費ゼロ・従量課金型での提供を実現し、社員10人未満の企業から大規模ECモールまで、業界問わず多くの企業に利用いただいています。自動化によって、人手による荷扱いを極力減らすことができ、かつ長時間稼働可能なことから、BCP対応としても評価いただいています。



スマートウェアハウスの特徴

- **Flexibility (柔軟性)**: シェアリングで、事業の成長・繁忙期に拡張対応。取扱品目の拡大や、季節性商材の売上拡大が可能
- **Quality (品質)**: 自動化・標準化されたオペレーションで作業ミスを低減。クレームの低減や顧客満足度の向上に貢献
- **Automatic (最先端の自動化)**: 省人化率72%の自動化で18,000個/日の発送を実現。自動化で人と荷物との接触を減らし、かつ受付締切時間を延長できるため、BCP対応としても活用可能
- **Variable Cost (物流の変動費化)**: 従量課金型のため、物流量に応じた費用で閑散期のコストダウンを実現。コスト構造の改善や営業利益の改善に貢献

SSCVとは、IoTテクノロジーを駆使して**輸送事業者の業務効率化、事故ゼロ化**を支援するサービスプラットフォーム。さらに**データを協創パートナーと共有し、新しいサービス・ビジネスの創出**をめざす。

SSCV-Smart

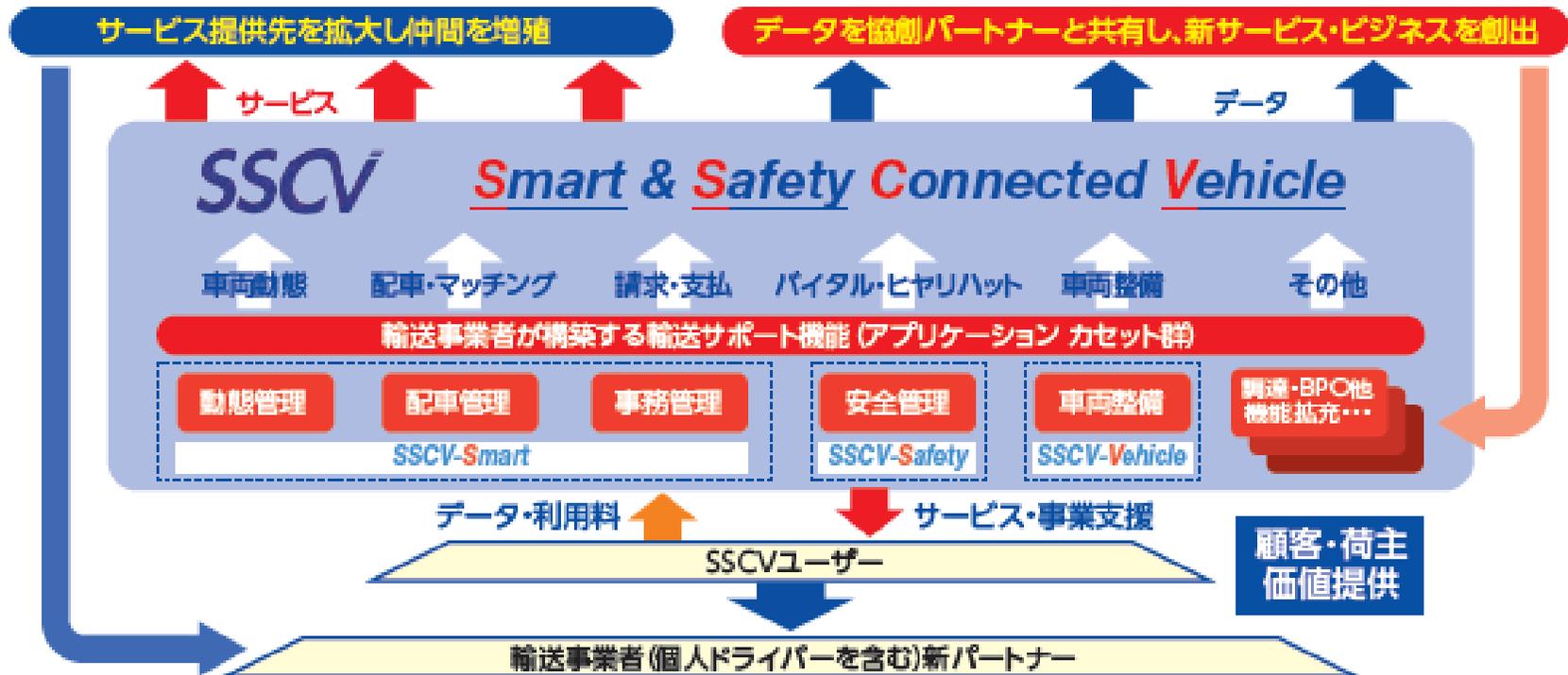
輸配送に関する業務をデジタル化し、輸送事業者の業務効率化や、コンプライアンスの強化を支援します。

SSCV-Safety

ドライバーの生体情報や車両の状態をセンシングし、AIで分析。リアルタイムにドライバーや運行管理者に警告を発信し、事故を未然に防ぎます。

SSCV-Vehicle

車両管理・整備実績の見える化・デジタル化で、車両稼働率の向上と管理工数削減を実現します。



輸送事業を通じた、オープンデジタルプラットフォーム(SSCVランド)を構築し、多様なパートナーとの協創により、社会課題の解決に貢献していく。

事業継続のための課題の共有と解決



オープンなSSCVサービス提供

異業種との連携によるCSVの追求

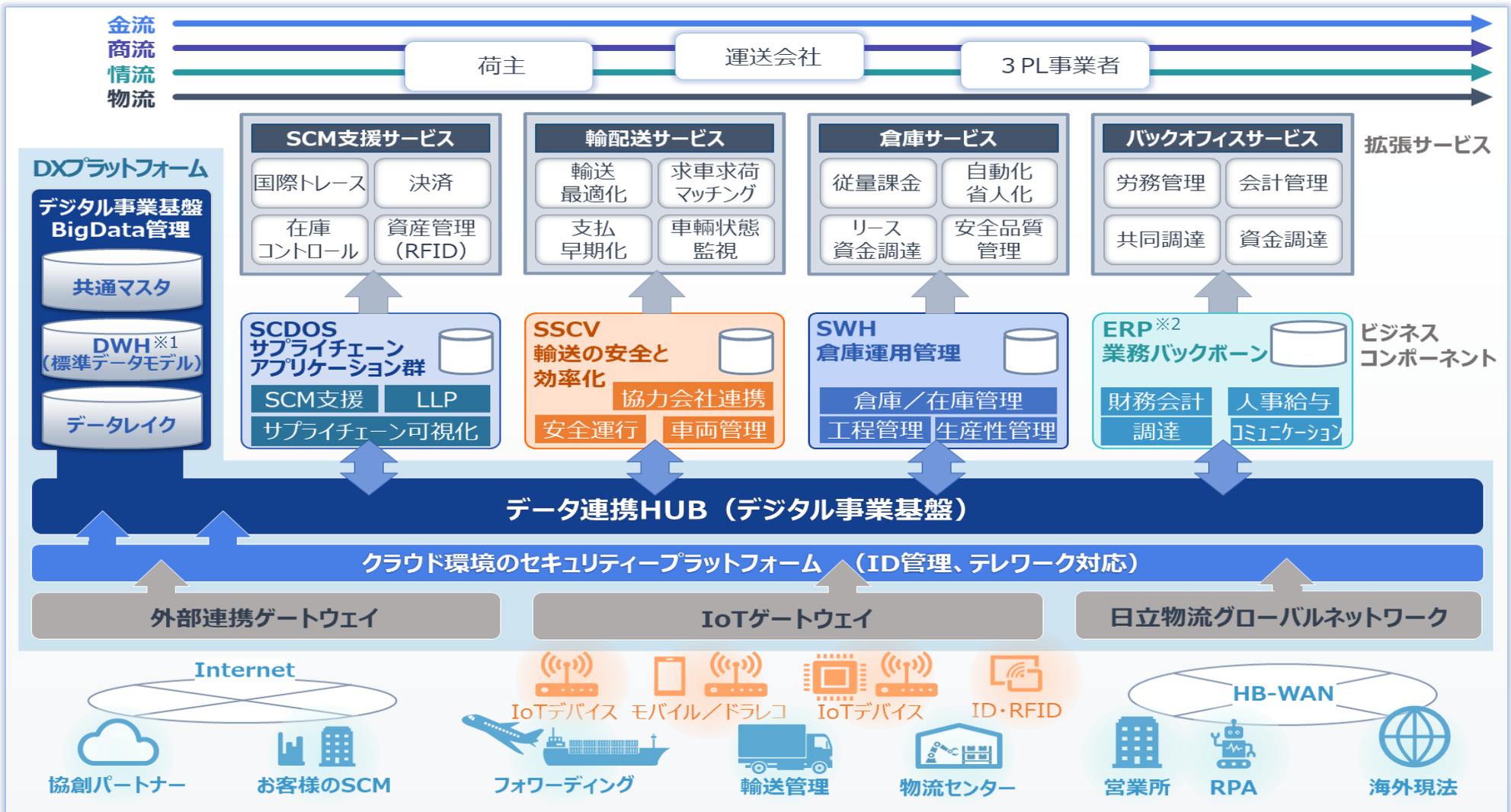


データドリブンな新サービスの創出



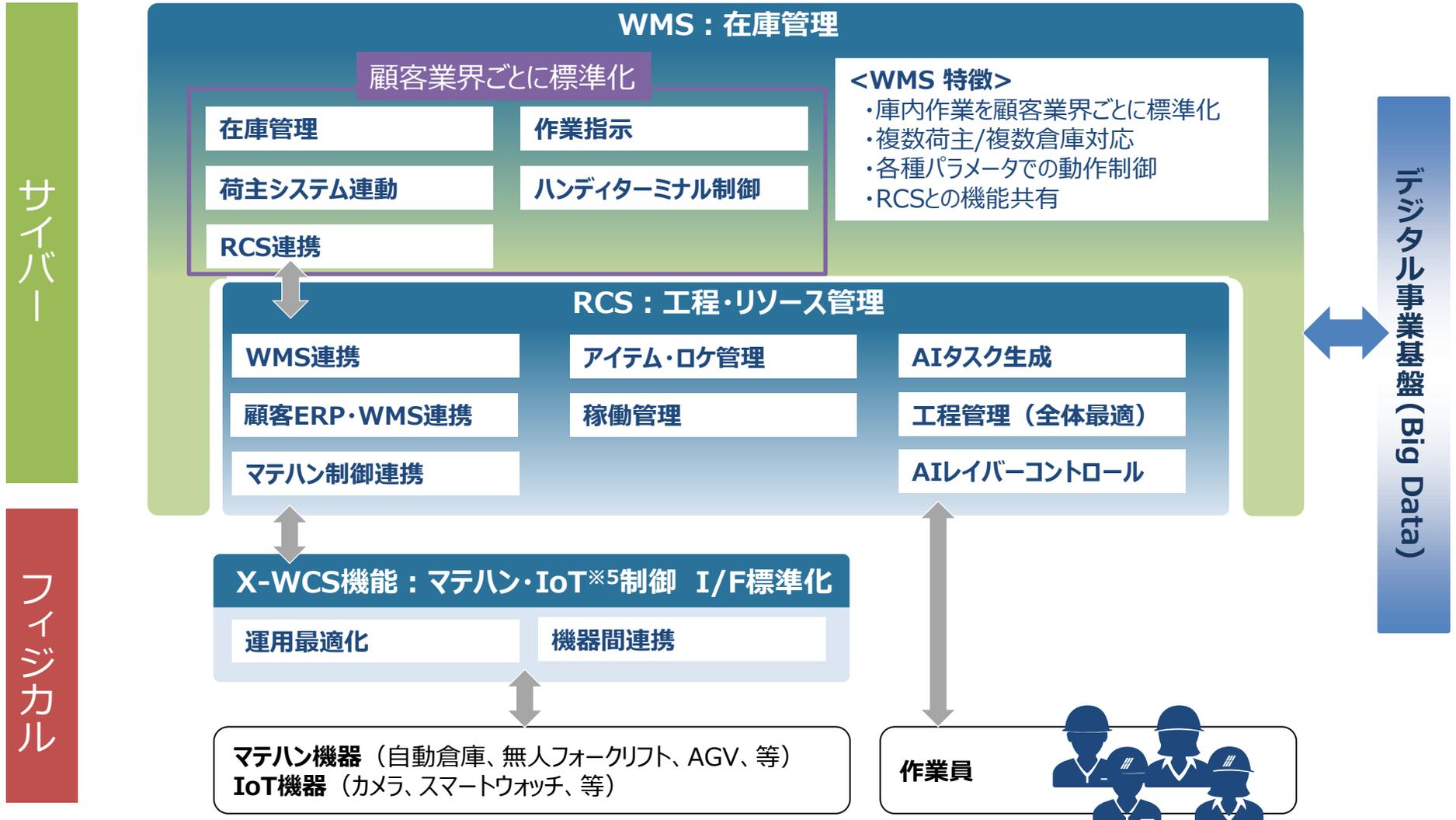
8. DX推進施策 ④ デジタル事業基盤

社内の業務データや顧客のSCMデータをプラットフォームに集約、標準化して蓄積。
データは当社が提供するサービスに活用するだけでなく、パートナーとの協創により付加価値を創造。

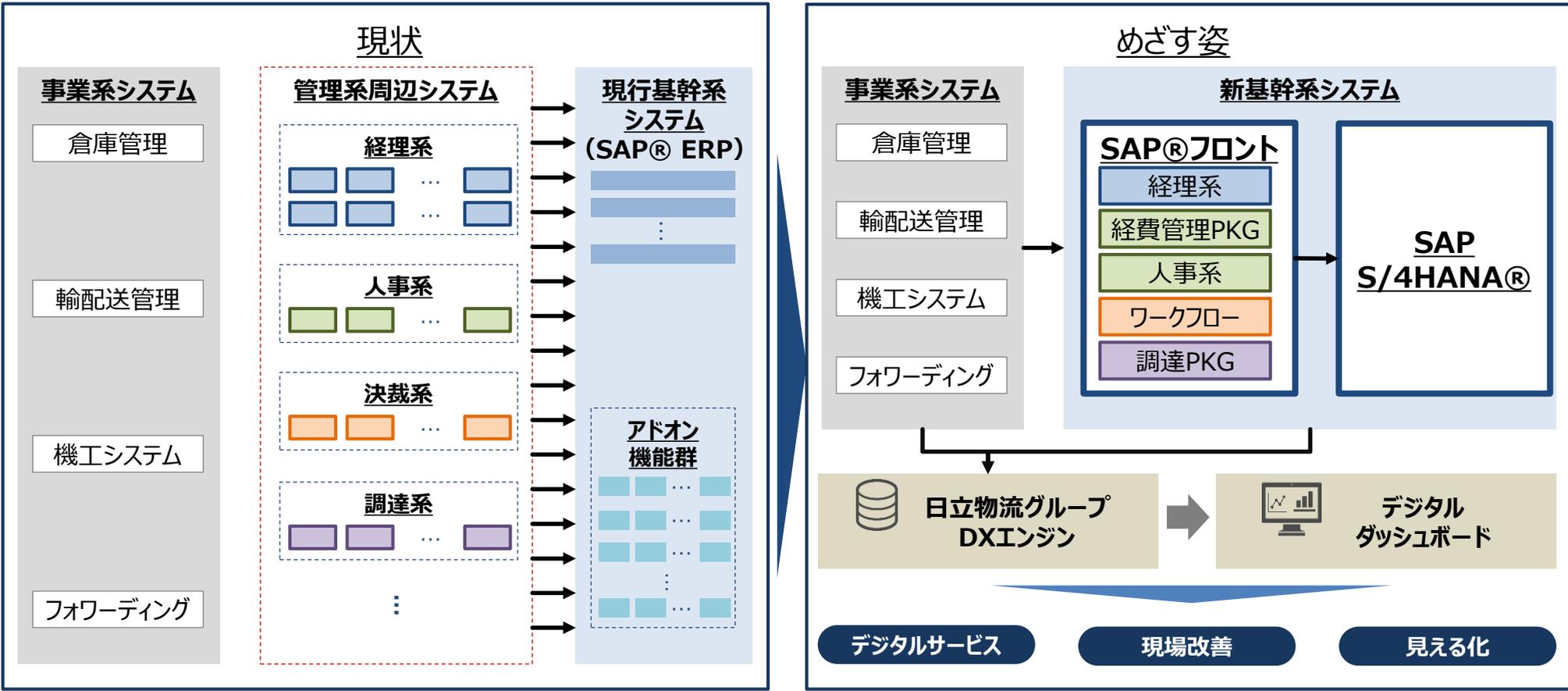


※1 Data Ware House ※2 Enterprise Resource Planning

WMS※1を中心に倉庫内システムを整理、RCS※2、X-WCS※3を含むプラットフォームとして再構築。顧客業界ごとに庫内作業の標準化を行い、複数拠点の最適運営を実現。デジタル事業基盤を通じて他システムとデータ連携。



基幹システムを、SAP S/4HANA®を中心としたシステムに**集約・統合し、基幹業務の効率向上とガバナンス強化**を実現。さらに、**データ活用による業務の可視化・改善**を推進。

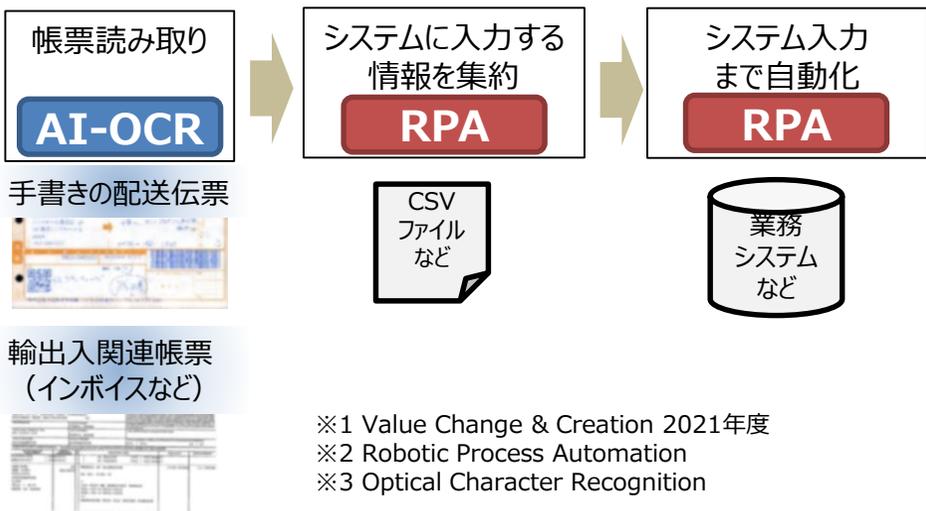


- 業務領域/拠点横断でのプロセスのシームレス化を通じた**ガバナンス強化とデジタル監査の実現**
- 脱エクセル、ペーパーレス化/電子化の推進と標準パッケージ、RPA等の活用による**各種業務の標準化・省力化**
- 企業コード、組織コードを含むマスタデータの一元管理とダッシュボード機能を用いた**データ利活用**

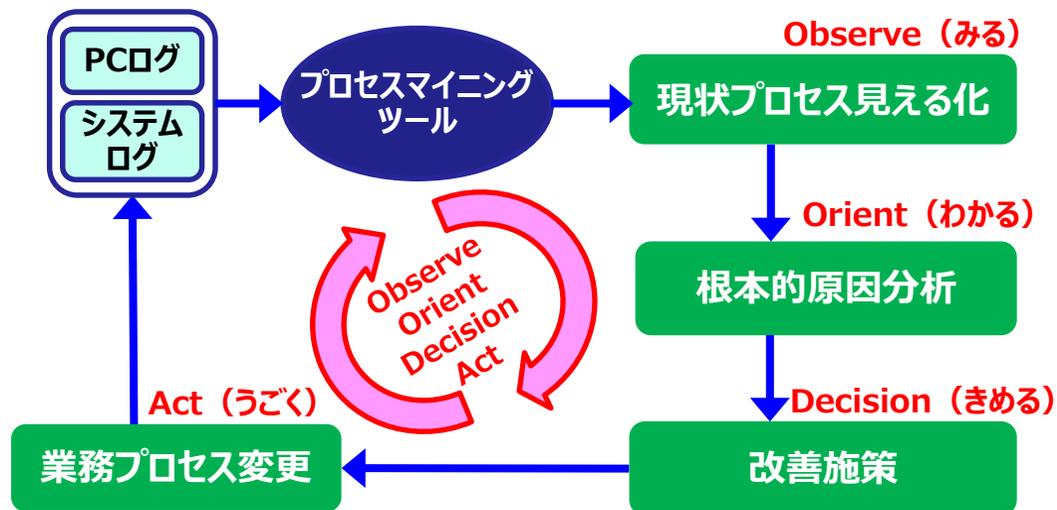
VC21※1活動の一環としてRPA※2の導入を推進。2020年12月までに**438種のロボットを開発**、**月当たり5,020時間相当の業務時間削減**を実現。さらにAIを組み合わせたソリューション導入による**業務プロセス改革**を推進。



AI-OCRのコンセプト 物流業に特化したツール開発中



プロセスマイニングのコンセプト コーポレート部門を中心にトライアル中



職位や所属などに応じて通知設定可能なポータルサイトを構築。情報の「入手」「共有」「伝達」を円滑化、業務効率の向上を支援。

■ 目的

ユーザの職位や所属部門に応じ集約・分類された必要な業務情報に対し、ワンストップでアクセスするための窓口となる「パーソナルポータルサイト」の構築

- 情報の「入手」「共有」「伝達」を効率化し、働き方改革における業務効率の向上支援
- 使いやすい・わかりやすいUXでエンployeeエクスペリエンス向上
- 社内手続きの見える化・標準化で情報の早期把握と対処の迅速化

■ 目標成果

- ・日次ログイン率80%以上、ユーザ満足度80%以上
- ・業務効率化（情報共有50%、検索20%、システム連携30%など）
- ・情報伝達効率化（タスク管理40%、通知50%など）

■ ポータルの機能

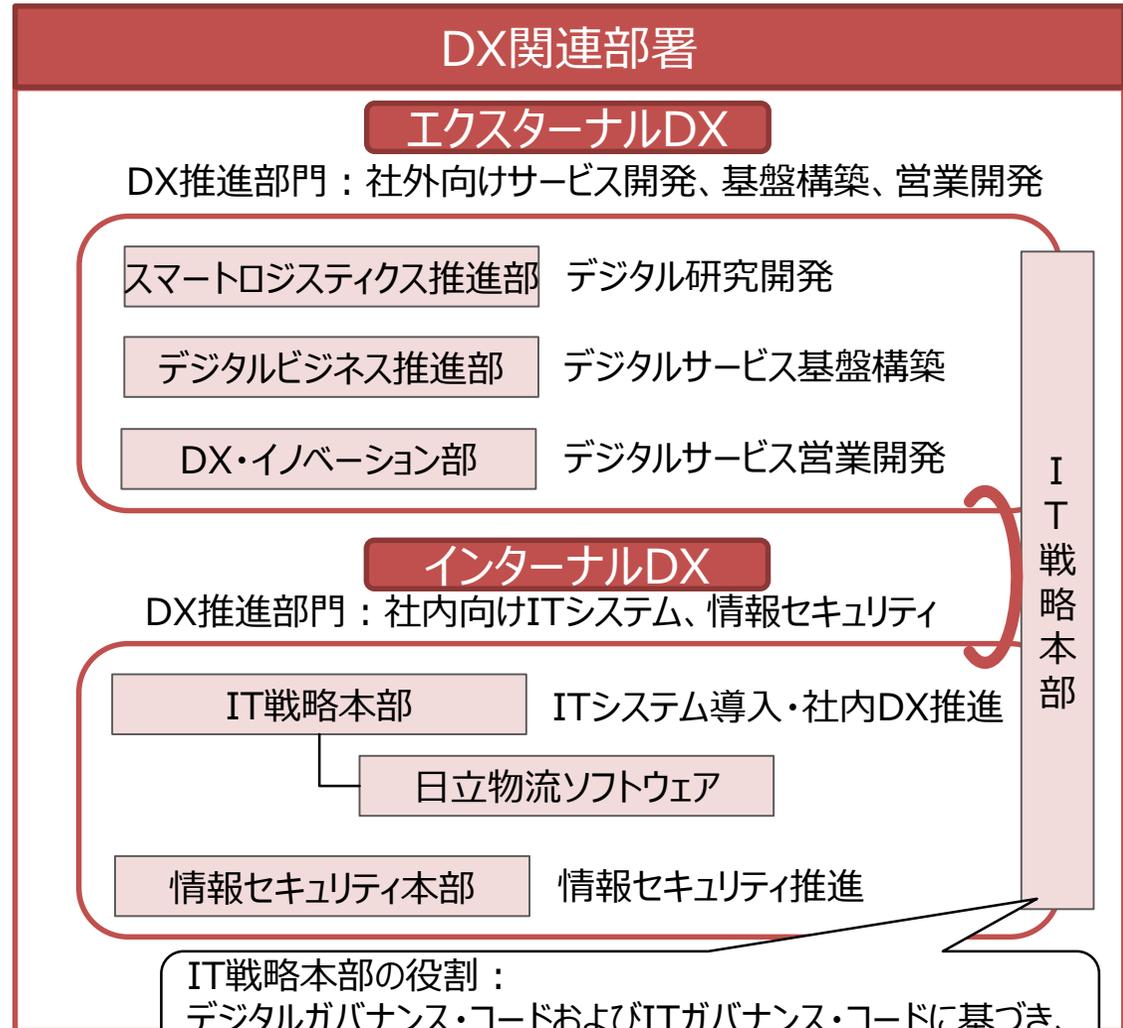
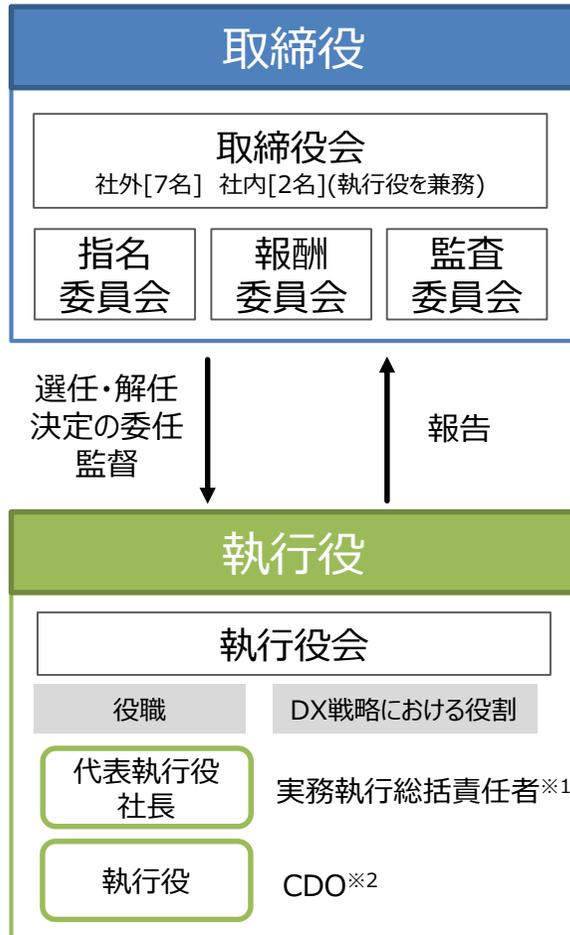
ポータルの機能	解決できる困りごと
情報共有	手続きに必要な規則が見つからない
検索	他部署の資料・情報が入手できない
社員検索	他所課員の職制・連絡先がわからない
ページ管理	情報が整理されていない
システムリンク	システムの入り口がわからない
通知通達	発信された通知に気づかない
タスク管理	タスクが実行されない

■ ポータルサイトのイメージ



代表執行役社長を実務執行総括責任者とし、社内のDXを推進する**CDO(Chief Digital Officer)**を選任。
CDOはDX戦略策定と施策のフォローアップを推進。

コーポレートガバナンス体制 (指名委員会等設置会社)

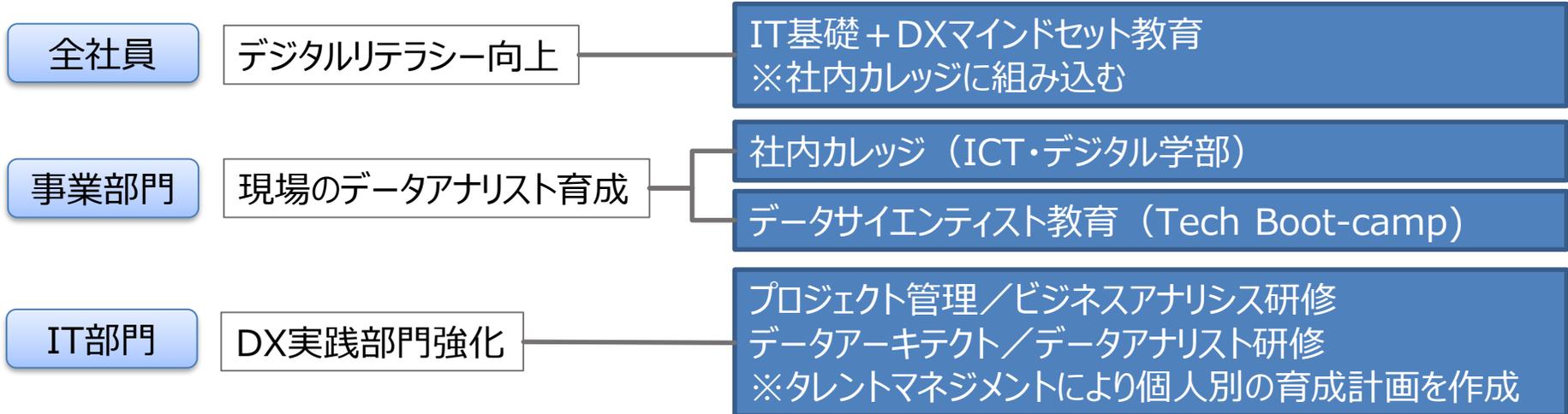


IT戦略本部の役割：
デジタルガバナンス・コードおよびITガバナンス・コードに基づき、
エクスターナルDX部門とインターナルDX部門を束ねる

※1 経済産業省令第四十八号において定める、DX戦略の推進等の実際の執行を総括する責任者
※2 Chief Digital Officer

DX人財育成体系を整備し、全社員向けのデジタルリテラシー向上、現場のデータアナリスト育成、DX実践部門の強化を推進。キャリア採用を含む良質な人財の確保に加え、**パートナー人財の長期・安定確保**を推進。

● DX人財育成体系



● DX人財確保施策

項目	内容
高度な人財の採用	・キャリア採用の強化と処遇制度の見直しにより技術者の採用強化および流出防止
パートナー人財の安定確保	・プーリング制度やラボ契約を活用し、パートナー人財を長期・安定確保

LOGISTEED CAFÉ を中心に、顧客やパートナーとの協創によりLOGISTEEDサービスを拡大。

Concept

日立物流の取り組みを**発信**し、お客様やパートナー企業様と**物流を超えた未来を創る場所**

発信

HBグループ従業員や社外のステークホルダー、協創パートナーとLOGISTEEDを共有

協創

LOGISTEEDを具現化し、新たな価値を共に創り出す

L×HUB



Project Room



LOGISTEED CAFÉ

Exhibitions

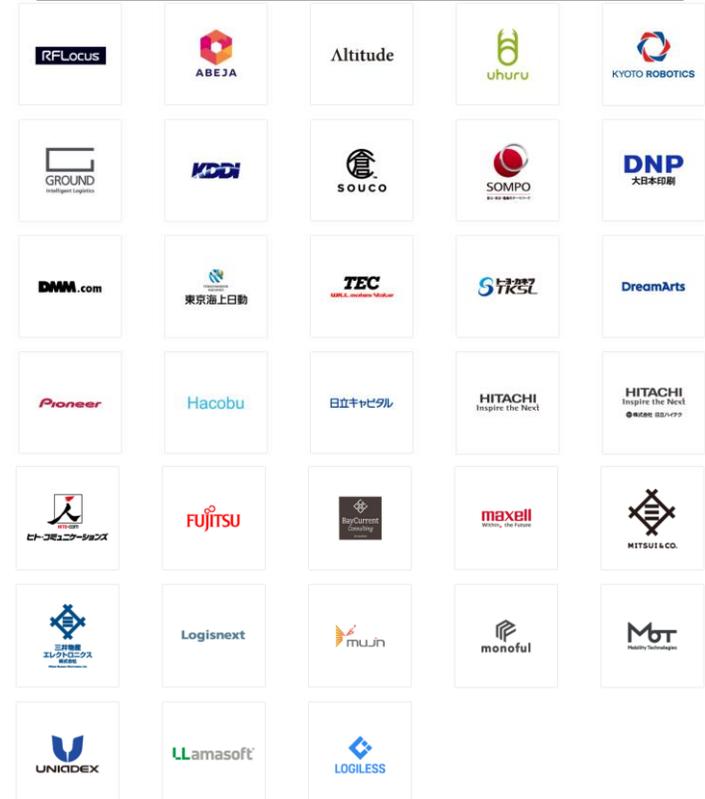


Theatre S

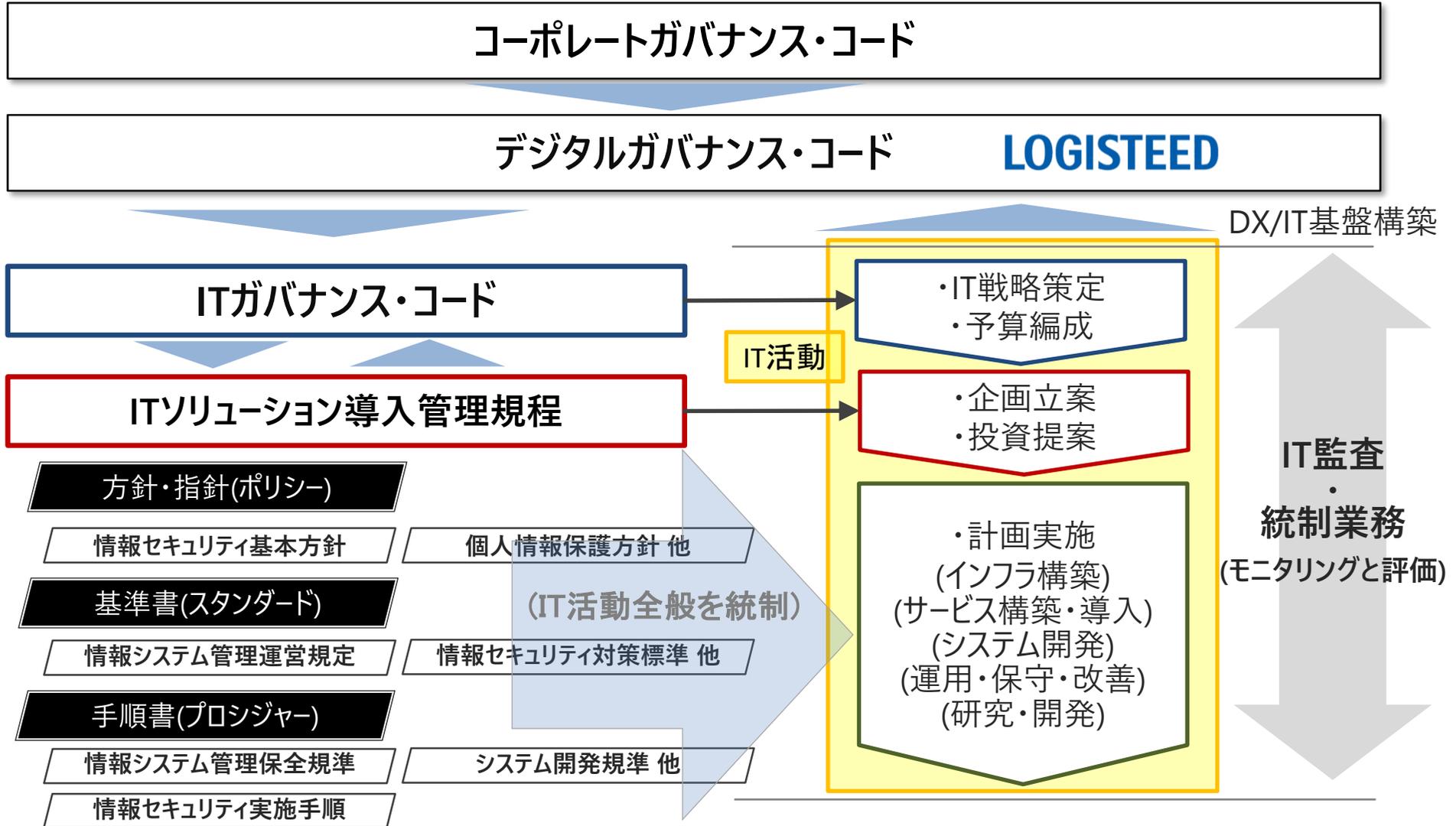


協創パートナー (20/11時点)

※五十音順



デジタルガバナンス・コードを踏まえ、IT導入・運用の原理・原則としてITガバナンス・コードを制定。グループ全体のIT活動に対してモニタリング・評価を行い、DXのためのIT基盤を構築。



LOGISTEED2021のゴールに向けて、DX関連で205億円の投資を実行。

2019年5月24日発表
中期経営計画
「LOGISTEED2021」より



KPIでDXの進捗を評価。エクスターナルDXの施策に関する下記のKPIを設定。

DX推進施策		評価指標(KPI)	2021年度目標	関連するSDGs
SCDOS		稼働件数(累計)	2.5倍(20年度比)	     
スマートウエアハウス		ピッキングのデジタル比率(AGV利用率)	70%以上	     
		梱包のデジタル比率(自動梱包機利用率)	70%以上	
SSCV	-Safety	導入車両数	2.8倍(20年度比)	     
		ドライバーのバイタルデータ取得数	2.5倍(20年度比)	
	-Smart	導入会社数	20倍(20年度比)	     
		運行指示書自動発行数	210倍(20年度比)	
	-Vehicle	整備記録のデジタル化台数	1.4倍(20年度比)	
	デジタル事業基盤 倉庫内デジタルプラットフォーム		レガシー対策済システム数、機能数(累計) ※保守不可能システムの正規システム化	システム数：1.5倍 機能数：1.5倍
基幹システム刷新		老朽化システム削減数	50システム	 
RPA (他のデジタルツールを含む)		業務削減時間(hr/月)	3倍(20年度比)	



物流は新領域へ
LOGISTEED